



森野 隆 議員

# 愛知川右岸道路の早期実現

**Q** 早期実現に向けて、今後のスケジュールを示せ

**A** 最短で令和6年度着工と県から示された

**問** 愛荘町合併以降は、湖東三山スマートインフラエンジニアに力を入れたことが、右岸道路の早期実現に支障を生じさせたのではないか。

**答** (建設下水道課長) 各市町長及び議会議長によって滋賀県知事、土木交通部長に対して年一回の要望活動を行っている。

**問** 交通渋滞の緩和に向けた道路整備は住民の願いであり、昭和58年に、関係がある1市4町が、愛知川右岸道路整備推進期成同盟会を設立したが、それ以降、まったく進んでいない。期成同盟会の取り組みは。

**答** (建設下水道課長) 湖東三山スマートインフラエンジニアは、国の交付金を活用して、整備促進がされた。右岸道路事業が一時中断した要因は、滋賀県において、財政不足に対応するため、財政構造改革プログラムによる事業見直しがされ、予算付けが無かった。また、早期に効果の発現できる事業に予算を重点配分され、県道神郷彦根線が優先された。

**問** 愛知川右岸道路(県道湖東彦根線道路改良工事)について

**答** (産業担当政策監) 町道名神国八線については、歩道整備を継続して実施しているが、お尋ねの安孫子交差点から以西の区間について

**問** 同盟会が設立され長い年月が経過したが、祇園神社の移転補償、改良工事、一部地権者の補償等が完了し、一定期間、滋賀県で財源が確保されなかった時期もあったが、今後は県とともにスピード感を持って地元関係者と事業進捗に向けた協議を進めていく。

**答** (町長) 町長就任以来、県知事や土木部長に対して右岸道路事業のスケジュールの明示、そしてその共有こそが事業進捗の肝であることを訴えた。今般

**問** 右岸道路早期実現に向けてのスケジュール等は

**答** (町長) 昨年度は観光物産推進室を設置し、観光物産振興計画の策定、愛知川・秦荘観光協会の合併調整、伝統産業会館の運営の見直し、湖東三山館あ

**問** 愛荘町の観光振興について今期3度目の質問

**答** (町長) 昨年度は観光物産推進室を設置し、観光物産振興計画の策定、愛知川・秦荘観光協会の合併調整、伝統産業会館の運営の見直し、湖東三山館あ

**問** 当初の観光振興のために、行政として観光課を設置するなど行政組織の編成が必要と考えるが町長の考えを問う。

**答** (町長) 行政組織を改めて見直すことはないが、職員体制の強化を図り、観光振興と物産振興に向け、関係機関と連携し、しっかりと取り組んでいく。



長年立ち続ける看板

# 街路灯の設置について

**Q** 悲惨な交通事故を防ぐため街路灯の設置を要望する

**A** 公安委員会や自治会等と協議し、法定速度の遵守看板や街路灯の設置を検討する



澤田 源宏 議員

**問** 街路灯の設置について

**答** (産業担当政策監) 町道名神国八線については、歩道整備を継続して実施しているが、お尋ねの安孫子交差点から以西の区間について

**問** 安孫子交差点から以西に伸び、吉田・愛知川方面へと続く町道に、街路灯の設置がひとつもない。愛荘町は、この道路を一般町道と位置付けている。その道路は稲枝や愛知川方面からの学生の帰宅路にもなっている。加えて夕方には、上下線共車やバイクの方も多く利用されている。残念なことに、昨年にはその町道で痛ましい死亡事故も発生した。愛荘町・豊郷町にまたがっているので両町が協議し、いち早く街路灯の設置を要望する。

**答** (建設下水道課長) 湖東三山スマートインフラエンジニアは、国の交付金を活用して、整備促進がされた。右岸道路事業が一時中断した要因は、滋賀県において、財政不足に対応するため、財政構造改革プログラムによる事業見直しがされ、予算付けが無かった。また、早期に効果の発現できる事業に予算を重点配分され、県道神郷彦根線が優先された。

では、歩道空間がなく歩行者の安全確保のため、今後歩道整備を進めていく予定である。

原則として、交通量の多い交差点などで道路照明灯の設置や歩道が設置された後、防犯灯の設置を行うこととして

しかしながら、議員のご指摘のとおり、当路線は直線距離も長く見通しが良いため、車両等が速度を上げる傾向にあり、公安委員会や自治会等と協議し、法定速度を遵守いただくための看板あるいは街路灯の設置などの対策を検討する。



街路灯のない町道



街路灯のある町道